市制施行30周年
記念座談会

# 「幸せを描けるまち廿日市市」を未来へつなぐ

**廿日市市のまちづくりの永遠のテーマである、「幸せを描けるまち」を未来の世代へとつなげていくため、三十年前の市制施行に尽力し、廿日市市発展の礎を築いていただいた三名に、当時の思い出を語っていただく座談会を開きました。コーディネーターは、廿日市市総合戦略検討会議の座長を務めた広島修道大学の山川肖美教授にお願いしました。（平成二十九年十二月十八日実施）**

廿日市市 市制施行　記念パレード

## 品格のあるまちへ

**山川●**私は廿日市市生まれではなく、二十年ほど前に引っ越してきました。当時私は結婚したばかりで、新居を決めるためにいろんなまちを回ったのですが、廿日市市を選んだのは住みやすく、これから家族と一緒に暮らしていくのに最適な環境だと思ったからです。暮らし続けるうちに、住み心地の良さは高まっており、その礎にはお三方を始め、多くの方の尽力があったことを改めて感じております。節目となる三十周年を迎え、今そして、これからの廿日市市の担い手となる人たちに市制施行の歴史を伝えてはと思い、お話を伺います。まず当時、廿日市町の社会福祉協議会会長で、市制審議会の委員でもいらっしゃった櫻井さんに、市民の立場から、市制施行当時の思いをお伺いします。

**櫻井●**町から市になると聞いた時、まず頭に浮かんだのはヒューマン・ライツといいますか、みんなで「友愛都市」を創ることができるんだなということです。廿日市町は、人口が五万人以上で、その中心に官公庁などの施設が揃っているなど、町が市になるための条件はクリアしていたので、市になることは可能だと誰もが感じていました。その上で、文化的で人間性豊かな、品格が感じられるまちづくりをいかに進めることができるかが課題だったと思います。行政サイドの頑張りもあって、市になってから多くの施設ができ、市域も拡張して現在のような素晴らしい廿日市市ができました。文化などの面でも充実し、トライアスロンやけん玉の世界的な大会を開くことができたのも、市制施行ができたからだと思います。

## 単独市制への道のり

**山川●**では当時、行政の立場ではどのような未来予想をしていたのかを、山下元市長にお聞きしたいのですが。

**山下●**高度経済成長期に百万人規模の政令指定都市制度が進められ、広島市がこれに手を上げました。昭和四十六（一九七一）年には「広島圏都市計画区域」が指定され、安佐郡、安芸郡、佐伯郡に合併を呼びかけました。廿日市町議会でも、昭和五十二（一九七七）年に「広域行政調査特別委員会」を設置し、①広島市との合併、②五日市町や大野町、宮島町を含めた中間都市構想、③単独市制の三つの方向で議論が進められました。そして、廿日市町と広島市の間にある五日市町が広島市と合併するかどうか決定していないことと、大野町や宮島町が競艇収入により財政的に潤っていたため合併に消極的であるという理由から昭和五十三（一九七八）年に単独市制へ進むことが望ましいという中間報告が議会に提案されました。こうして、大きいばかりが良いのではない、これからはコンパクトな自治体の方が暮らしやすいのではないかという声が強くなり、私は当時町議会議長だったのですが、議会をその方向でまとめました。昭和六十三（一九八八）年に市制施行するに至ったわけです。

## 万全の協力態勢で市制施行

**山川●**当時は、地理的にも経済的にも大きく、豊かな方向が良いという意見があったと思いますが、そうした中、小さな拠点と地域経済の自立という今、重要とされていることに、昭和六十年代から未来に先駆けて取り組まれてこられたわけですね。そうした意識をどのようにして市民の方々と共有していったのか、当時、町職員として交渉にあたった眞野市長にお話をお願いします。

**眞野●**市制の施行については、当時の中尾町長、半明町長のもと、全職員が一丸となって、その準備に取り組みました。私自身は、昭和六十一（一九八六）年に設置された市制調査室の室長として、町内の九会場で市制施行についての説明会を開催しました。どの会場もいっぱいになり、市制施行で市民サービスはどのように変わるのかなど、たくさんの質問を受けました。昭和六十二（一九八七）年一月に市制住民アンケート調査を行うと約六割以上が賛成で、どちらでもよいが約一割という結果でした。同年四月に市制準備室が設けられ、十二月には商工会やPTA連合会、体育協会、文化協会などの代表者で組織する「はつかいち21世紀への旅立ち実行委員会」が設立されるなど、万全の協力体制で市制施行に取り組み、昭和六十三（一九八八）年四月一日に県内十三番目の市として廿日市市が誕生しました。翌日の四月二日には、国道二号をJA広島総合病院から廿日市港まで約二キロメートルにわたり山陽女学園のバトン部の先導で市民約八百人がパレードをして喜びを分かち合いました。

**山下●**昭和四十年代、廿日市町の一番の悩みは、水道水の不足でした。それが、昭和五十六（一九八一）年に広島県が魚切ダムを建設したことで解決しました。それに先立つ、昭和五十一（一九七六）年には木材港が開港、翌五十二（一九七七）年には廿日市ニュータウンが完了公告をしました。雇用の場と住居ができ、水道の問題が解決したことが単独市制への出発点になったと思います。住民の皆さんも協力的で、本当に一体となってまちづくりを進めることができました。

## 市域の拡大と一体化

**山川●**市制施行後、平成十五（二〇〇三）年三月には佐伯町、吉和村と、同十七（二〇〇五）年十一月には大野町、宮島町と合併し、市域は拡大しました。

**山下●**"平成の大合併"という国をあげての取り組みの一環ではありますが、市制施行の時にきちんとまちづくりを行っていたことがその後の合併をスムーズにしたと思います。選挙の時にスローガンで使わせていただいた、「スキーと海水浴ができるまち」が誕生したのです。また、観光地として世界から注目される世界遺産を有する宮島があることも誇れることですね。

**眞野●**合併には苦労もありましたが、広島県の、ひいては日本の縮図のような多様な魅力のある地域を持ち、悠久の歴史、文化、自然がある素晴らしいまちになったと思います。

**櫻井●**廿日市市を弥山から見下ろすと、

本当に景色が美しい。海も山も豊かな、県内でも一番の素晴らしいまちだと思います。総合病院や大型ショッピングセンター、文化ホールもできて、広島市に行かなくてもグレードの高い生活を送ることが可能になりました。大学、短大、高校もあり、教育の場が多いのも良いですね。高齢者のふれあいの場も多く、子どもからお年寄りまで住みやすいまちになったと思います。

**眞野●**廿日市市の沿岸部から佐伯や吉和へのアクセスも以前に比べると良くなり、合併して十数年が経ち、ようやく市としての一体感ができてきたと思います。

**山川●**私はお祭りが好きで、廿日市市は祭り事が多く秋は毎週のように出かけているのですが、人出が足りない場合は地域を越えて助け合っており、市としての一体感を感じます。

**眞野●**宮島などは若者が少なく、祭りを運営しにくくなっています。地域を越えて交流・応援しながら、伝承していかなければならないと思いますね。

## 人口と活力を維持するために

**山川●**日本の人口減少が危惧される中、廿日市市でも未来を見据えた対策が必要だと思います。誰もが住みたいと思ってもらえるようなまちにするため、市としてはどのような施策を進めておられるかお伺いします。

**眞野●**現在、市の人口は増加していますが、二〇四〇年には九万人を下回るという予測があります。人口十万人を維持するため、「第六次廿日市市総合計画」のもと、さまざまな取り組みを行っています。市民アンケートでは、①子育てしやすいまち、②アクセスの良いまちへのご要望も多く、出産から子育てまで、トータルに支援する「ネウボラはつかいち」の設置や保育の充実のための公私連携型保育園の整備も進めています。JA広島総合病院と連携した地域医療拠点等整備事業は、福祉機能・医療機能・まちづくりの機能をもたせて一体的な整備に取り組みます。そして、新たな都市活力創出基盤の整備のための平良・佐方地区での新機能都市開発事業にも取り組んでいます。

また、一体的なまちづくりが進められるよう、中山間地域の交通アクセスをさらに改善するほか、新たな観光交流拠点として宮島口周辺を整備し、賑わいを市域全体へ波及させていきます。

**山下●**市制施行した昭和六十三(一九八八)年には、浄財によってJR宮内串戸駅が誕生しました。また、市制二十年を記念して、平成十九(二〇〇七)年にはテレビ番組の公開録画や、大相撲宮島場所を招聘(しょう)し、トライアスロンや市民合唱祭が市民によってスタートされました。市制三十周年に際しても、市民が一体になれるようなイベントを企画していただきたいですね。

**山川●**廿日市市は、平成二十四(二〇一二)年に「協働によるまちづくり基本条例」を制定し、住民と一体となったまちづくりをスタートさせています。実際、住民の方々は廿日市市が本当に好きで、若い人と話しても、学校や仕事でいったん市外に出ることがあっても、戻ってきたいという声をよく聞きます。文化ができ上がるには三十年、それが歴史になるのには百年かかるといわれますが、最後にこれからの廿日市市を担う次世代へのメッセージをお願いします。

**櫻井●**市制施行三十周年を迎え、素晴らしいまちができました。若い世代の力でますます発展させてもらいたいし、そうしてもらわないと困ると思います。

**山下●**市の発展のために、自分が継続的に何かをしたいと思ってもらえるような、住民参加のまちづくりを進めてもらいたいです。また、これからの時代には、これが廿日市市だと言えるような特色のあるまちにする必要があると思います。

**眞野●**市民の皆さんと一体となって歴史や文化の魅力を発信し、若者もまちづくりに積極的に参加してもらえるようにしていきたいですね。廿日市市には、まちづくりの力強い源となる「市民力」や各地域で育まれてきた「地域力」があります。市制施行三十周年を契機として、次の三十年、五十年先を見据え、躍動し未来を拓くまちづくりを進めていかなければなりません。

**山川●**市民憲章に謳われたまちの姿を守りながら、働く場所や子育てができる場所を増やし、次世代へまちの発展をつないでいけたらと思います。本日はありがとうございました。





### ◆出席者プロフィール

眞野勝弘(しんのかつひろ)氏

- ●昭和61年4月～昭和62年3月 廿日市町市制調査室長
- ●昭和62年4月～昭和63年3月 廿日市町市制準備室長
- ●昭和63年4月～平成元年3月 廿日市市財政課長
- ●平成元年4月～平成11年11月 廿日市市総務部長
- ●平成11年12月～平成19年3月 廿日市市助役
- ●平成19年4月～平成19年8月 廿日市市副市長
- ●平成19年11月～ 廿日市市長

山下三郎(やましたさぶろう)氏

- ●昭和30年4月～昭和31年9月 宮内村議会議員
- ●昭和31年9月～昭和49年3月 廿日市町議会議員
- ●昭和52年4月～昭和63年3月 廿日市町議会議員
- ●昭和60年4月～昭和63年3月 廿日市町議会議長
- ●昭和63年4月～平成3年10月 廿日市市議会議員
- ●昭和63年4月～平成3年4月 廿日市市議会議長
- ●平成3年11月～平成19年11月 廿日市市長

櫻井正弥(さくらいまさみ)氏

- ●昭和46年12月～平成21年12月 廿日市(町)市民生委員・児童委員
- ●昭和59年4月～平成23年5月 廿日市(町)市社会福祉協議会会長
- ●昭和61年4月～平成20年3月 廿日市(町)市文化財保護審議会委員
- ●昭和61年8月～ 市制審議会委員
- ●昭和63年4月～平成21年12月 廿日市市民生委員児童委員協議会会長

山川肖美(やまかわあゆみ)氏

- ●平成19年4月～ 広島修道大学人文学部教授
- ●平成20年12月～ 廿日市市教育委員
- ●平成24年1月～ 廿日市市男女共同参画懇話会会長
- ●平成26年4月～平成30年3月 広島修道大学副学長兼 ひろしま未来協創センター長
- ●平成26年6月～平成27年3月 廿日市市教育委員会委員長
- ●平成27年4月～ 同教育長職務代理
- ●平成27年6月～10月 廿日市市総合戦略検討会議座長